

33

昭和二十九年

全岳連発会式々の経過報告

四月 十四、十五日 於 箱根 関東地区岳連結成準備会  
 五月 二十三日 於 日本体協 関東地区岳連結成  
 六月 二十三日 於 大阪 関東・関西懇談会  
 七月 六日 於 日本山岳会 関東岳連と日本山岳会との懇談会  
 七月 十一日 於 神奈川 全岳連結成の為日本山岳会が発起人となることを要請  
 七月 十四日 於 関西 関東地区岳連理事會  
 七月 十六日 於 旭川 北海道大会にて全日本山岳連盟を結成する為の打合せ  
 七月 二十三日 於 旭川 日本山岳会より「全岳連結成の為の協力惜しませず」との解答あり  
 七月 二十四日 於 旭川・興隆寺 近畿地区岳連連絡協議会結成  
 決議 全岳連結成の為の有志懇談会  
 八月 十五日 於 千葉 全日本山岳連盟結成大会  
 十一月一日 於 日本体協に於ける 我等は茲に全国都道府県を単位とする山岳連盟（協会）を以つて全日本山岳連盟  
 十一月九日 於 日本体協に於ける 我等は右に關する細目については発起人に一任する  
 十一月九日 於 日本体協に於ける 我等は地区別委員を選出し連絡に當てる  
 十一月九日 於 日本体協に於ける 関東地区岳連理事會  
 十一月九日 於 日本体協に於ける 日本山岳会より登山団体委員会規定案の提出あり  
 十一月九日 於 日本体協に於ける 榎日本山岳会会長は「全岳連と協議の上十二月末迄に登山団体委員会を作り上げる」と言明

三頁目、ナイロニザールの使用停止を報するもの

十一月十四日 於 前橋  
十二月六日―七日 於 箱根

- 関東地区岳連理事會
- 日本山岳会よりの登山団体委員会規定案を反対返上する
- 全岳連地区別代表者會議
- 全岳連規約案審議
- (一) 国民体育大会登山部門委員会規定案審議
- (一) 全岳連発会式について打合せ

昭和三十年  
一月二十八日 於 東京  
二月六日 於 山岳会

関東三都府岳連協議會 以上は全国へ報告済である。  
榎氏に全岳連会長を依頼  
毎日新聞にて全岳連問題に関する記事発表  
千葉岳連北島氏は日本体協国内部長の個人的招待により日本山岳会渡辺公平氏と体協にて懇談す

三月十八日 於 東京  
三月二十四日 於 東京  
三月二十五日 於 山岳会  
四月一日 於 日本山岳会  
四月六日 於 日本体協  
四月九日 於 日本体協  
四月十四日 於 東京

毎日新聞は十七日の懇談会の内容の一部分を発表  
関東地区岳連理事會 別 紙  
神奈川岳連より日本山岳会渡辺公平氏宛に「登山団体委員会の具体化」せられる様要請  
関東地区岳連と日本山岳会との懇談会 別 紙  
国民体育大会登山部門委員会規定案の審議 後日報告  
全岳連発会式の細目についての打合せ 別 紙  
全岳連発会式実行委員会

四月十九日 於 東京

全岳連発会式実行委員会

四月二十二日 於 武田久吉博士邸

会長推戴交渉委員  
発会式に関する諸文書の作成打合せ

全岳連会長就任願いに武田久吉博士自宅訪問し就任の快諾を得る 別 紙

日本山岳連盟 から送付された資料 (昭和三十年三月二十四日)

経過報告の別紙  
三月二十四日 東京神田エビハラコーヒ店にて 十七時三〇分―二十時三〇分  
関東地区岳連理事會

- 出席者
- 東京 羽賀・高橋(定)・齋藤・星野・鎌田・高橋(照)・釣巻
  - 栃木 坂口・徳田
  - 群馬 森村
  - 神奈川 尾関・村松・吉田・小泉
  - 山梨 芦沢
  - 日体協 福井
  - 千葉 北島・野村・井上・石井・鶴谷・高梨

「ナイロンザイル使用停止の件」  
東洋レイヨン。東京製綱より全岳連へ「今冬の遭難二件はナイロンザイルに依るものである故、詳細なデータの挙るまで一時使用を停止せられたい」との申入れあり今後の事故防止の為早急に各団体及び登山者に連絡なされたいとの依頼あり各地方へ連絡せられたい

二件件名を念につて  
以下略

6

二 国体登山委員会について

日本山岳会の都合で今日まだ発足をみてゐないが当初の形式にて接渉を続ける

三 新聞記事に関する報告

北島

① 三月十五日 北島氏は毎日・報知・千葉・読売(欠)・朝日に全岳連の経過説明

② 十六日 毎日新聞掲載

③ 十七日 日体協吉田国内部長より個人的に日本山岳会渡辺公平氏を交えて懇談すべく招かれる

④ 十八日 毎日新聞十七日会談の一部を掲載

◎ 四月一日 於日本山岳会ルーム 十三時より

日本山岳会と関東地区岳連との懇談会

出席者 日本山岳会 横・渡辺

東京 高橋(定)

神奈川 尾関・村松・吉田

千葉 北島

体協 福井

一 全岳連会長を横氏に依頼の回答の件

全岳連より全日本山岳連盟の会長に推戴したいとの過日のお願ひに対し横氏より「全岳連について今後の協力は惜しまぬが全

岳連会長については一身上の都合により日本山岳会の会長も辞任する意向なものでしたがつて辞退したき旨の回答があつた

◎ 四月九日 日本体協談話室

一八時三〇分―二〇時三〇分

全岳連発会式の細目についての打合

出席者 東京 高橋(定)・星野

栃木 鈴木・坂口

一 全岳連会長の経過報告及び協議

横氏の辞退により種々協議の結果武田久吉博士に御依頼申し上げることに決定

二 全岳連の発会式の細目打合せ

東京、神奈川、千葉の三岳連より委員を派遣し、全岳連発会式の実行委員会を作り連絡等に当る。

◎ 四月十四日 実行委員会

◎ 四月十九日 実行委員会

◎ 四月二十二日 於武田久吉博士邸

会長推戴就任方交渉

出席者 東京 高橋(定) 羽賀

神奈川 尾関

千葉 北島

村松

四月九日決定の前日本山岳会々長同会創立者である武田久吉博士に会長就任方御依頼申上るため武田邸へ訪問致し御願ひ申上りました如武田博士に於かれては全岳連の意のあるところを了とせられ会長に就任下さる事を快諾下された。